

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (四国)	良く なっている	スーパー（店長）	単価の動き	・一時の消費税増税の影響が薄れてきている。高単価の商品も、徐々に売りやすくなってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・盆商戦は生鮮食品を中心に順調であった。消費税増税後の反動がさらに弱まり、買上点数が前年並みに回復してきている。
	やや良く なっている	スーパー（財務担当）	単価の動き	・生鮮関係が好調を維持している。全体では、前年比プラスの売上となっている。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・競合店の出店で客数は減少しているが、客単価と買上点数は微増しており、景気はやや上向いている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・若い人たちにも物品購入にお金を使う、旅行やレジャーにもお金を使うというような動きが出てきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べて、やや良くなっている。前年比では、客の乗車率、単価、売上等は2割くらい下落しているが、今年は例年になく雨量が多かったことが要因だろう。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・前月比・3か月前比・前年比とも売上は減少しているものの、お盆レースが開催された8月は一定の売上を確保した。	
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・ここ数年日本は大きな天災被害が続いており、景気回復の足を引っ張っているのではないかと。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・売上は前年並みで推移しているが、顧客単価が減少傾向にあり、薄利多売で何とか営業している状態である。消費税増税以降、顧客の可処分所得が、まだ回復しているようにはみえない。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・台風など気象の影響で価格が上昇し買上が伸びているが、来店客数は従来とほとんど変化がない。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・8月は2つの台風の影響により来客数が大きく減少し、営業時間の短縮も余儀なくされたため、売上は前年を下回っている。また気温が比較的低温で推移しているため、夏物の最終セールにマイナスの影響が出ている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みが回復せず、横ばいで推移している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の影響は薄れてきたように見えるが、販売量の回復には至らない。年末に向けて期待している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・8月に入っても、新車受注は低調である。他社の新車広告もあまり載っていない。9月以降も新車販売が前年並みまで回復するのは難しい。
		その他小売 [ショッピングセンター]（支配人）	販売量の動き	・今月は天候不順によるマイナスの要因が非常に大きい。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・夏休みや盆休みのある8月は、顧客が会社員中心の当店は、例年と変わらない。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・台風と大雨の影響でイベント等の中止があったため、客足は低調であった。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・ここ数か月、客からの問い合わせ件数が増えていたが、今月は減少し、平年程度に落ち着いた。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品発売前であり、買い控えの傾向が出てきている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・夏休みで子供の来店が多いものの、売上は変わらない。
	設計事務所（所長）	販売量の動き	・現時点で今年度の受注目標がおおむね達成見込みになった。	
やや悪く なっている	やや悪く なっている	商店街（事務局長）	販売量の動き	・週末ごとに天候不順となり、購買意欲がそがれている。消費税増税の反動減は予想以上に長期化し、年末まで及ぶのではないかとみている。プレミアム感のあるものや高額でも限定品等には人気が集まり、消費の下支えとなっている。
		商店街（代表者）	それ以外	・天候不順が景気を押し下げているように思う。
		一般小売店[生花]（経営者）	来客数の動き	・来客が少し減少した。繁華街を歩く人も少なく、近隣の店舗も来客数が少なめだったようだ。無難な商品が売れ筋で、高級品の動きは悪い。

		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・近隣の店が閉店し、人の流れが変わってきた。店頭売上、外商売上ともに前年割れである。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・8月は販売量、来客数ともに動きが鈍くなっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・食品は堅調に推移したが、主力の衣料品や高額品が、天候不順（雨天・冷夏）や依然として続く消費税増税の影響により苦戦中。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・客数減と買上点数減の状況が続く。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・7月中旬より昨年比マイナスに転じ、8月は天候不順が重なり、ここ何年来の低調な数字となった。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・8月は台風や雨が続き、特に週末に天気の良かった日がほとんどなかったこともあり客足は鈍かった。平日も来客数は振るわず、おそらく天候以外にも何か原因があるのだろう。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税による受注減は厳しさを増しており、この状況は今後も継続するだろう。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	お客様の様子	・中国産鶏肉偽装問題で、鶏肉関係の売上が激減している。原材料不安が助長され外食産業全体に波及しているようだ。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・国内では関西圏を中心に旅行客が増えているが、度重なる台風や豪雨の影響で全般的に旅行客の減少が目立つ。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・今月は悪天候が客足に影響した。来場者、売上とも落ちている。
	悪くなっている	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・納入商品の価格上昇等で物が売れない状態が続いている。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・土日やお盆など、稼ぎ時の天候不順や台風によって売上が悪化している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・8月単月で過去最低の販売台数となり、4月以降もっとも悪い月となってしまった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夏場はお遍路客が少ない。今年は天候が悪かったこともあり、収入はかなり落ちた。
		美容室（経営者）	単価の動き	・台風や大雨などの天候不順で来客数の落ち込みが大きく、さらに客単価も変わらず、低調な状況が続く。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	鉄鋼業（総務部長）	受注価格や販売価格の動き	・主力造船会社との受注価格交渉において若干の値戻しがあり、採算面においてやや好転している。
(四国)	変わらない	農林水産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・台風の影響で供給量が減少し、販売価格が高値となっている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新しい分野への取り組みを行っている店は順調である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・海外は地域差があるものの、国内の販売状況は引き続き堅調。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中型の太陽光発電設備についての問い合わせが多く、施工も多い。またメガソーラー設計も始まっている。当社を取り巻く景気は良いのではないかと。
		建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量とも減っている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業の新規発注が順調であることから、売上を大きく減らすことなく推移している。3か月前と比べて、数値はやや下がっている程度で影響は小さい。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・官民とも、なかなか受注に結びつかない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・特に大きな変化を感じない。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・製造業は増収・増益傾向がみられるが、小売業は消費税増税後の反動減の影響を受けて、減収・減収となっている。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税以降、得意先の売上の回復が遅れており、販売促進費が抑えられている。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の各企業の決算、月次の試算表の売上面をみると、前年とほとんど変わらない。損益面ではマイナスになっている企業が増えている。

	やや悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者） 輸送業（営業）	受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き	・ 8月が一番の閑散期なので、受注量は少ない。例年同様9月以降は徐々に増加していくはずである。 ・ 景気低迷の影響を受け取扱物量が減少傾向にある。8月上旬に四国を直撃した台風の影響で、被災した荷主が多数出たことから、取扱物量の減少に更に拍車をかける形となった。四国島外より青果物が流入する時期であるが、台風の影響で近隣の産地からの流通が停滞、全国的に販売価格が高止まりとなった事から、消費動向も下向きとなり受注量が減少、取扱物量も著しく減少した。
	悪くなっている	輸送業（支店長）	それ以外	・ 燃油価格の高止まり、高速道路料金の割引率の引き下げや人件費の高騰などの要因が顕著。
雇用関連 (四国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員） 職業安定所（職員）	求職者数の動き それ以外	・ 新規求職者数では前年比12%減少、雇用保険受給者数では前年比24%減少しており、在職者である雇用保険被保険者数は昨年より約1300人増加している。 ・ 7月の月間有効求人倍率は1.04倍で、3か月前と比較して0.03ポイント上昇している。
変わらない		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・ 建設業や医療・介護等以前から不足している業種に求人が偏っており、全体的な景気上昇は感じられない。
		人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・ 人手不足による求人件数は増加傾向の上半期だが、思うような人材が集まらず、業務の見直しと併せ求人ニーズも少し落ち着いている傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・ 8月は集中豪雨や台風などの悪天候が加わり、折込チラシ・イベントなどの販売直結部門が特に不調。家電関連は積極的に販促していたが客数は少ない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・ 景気が良いことで、労働力不足の影響が、ほぼすべての産業にみられる。
		民間職業紹介機関（所長）	採用者数の動き	・ 採用者数は、来春用の人員を今春以上に増やそうとする企業は少ない。また、中途採用についても、欠員補充ということでの採用はあるが、将来を見据えて人員を拡充しようとする企業は少ない。
やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・ 派遣登録する求職者が減少しており、求人に対応できていない。ミスマッチも多く就労に繋がりにくい。	
	悪くなっている	-	-	-